

インスリン自己注射の効果的指導を考える

—指導マニュアルを作成して

6階東病棟

○ 西岡 高子 中平真夕子 廣田 由紀 近江 優子
 西尾 有希 田口 喜子 松田久美子 中村 美保

キーワード：糖尿病、指導の統一、自己注射、インスリン療法、セルフケア

I. はじめに

我が国の糖尿病患者数は、1997年に厚生労働省が行った実態調査では、「糖尿病が強く疑われる人」が690万人、「糖尿病の可能性が否定できない人」が約680万人とされ、2000年には職域健康診断受診者の10人に1人の割合で高血糖が見られたと報告されている。

当病棟では入院患者の1割を糖尿病患者が占め、インスリン療法導入となる患者は多い。慢性疾患である糖尿病は再入院する患者が多く、その際インスリン自己注射の手技を確認すると、エア抜き・単位数の確認や清潔操作が十分に出来ていない場面が多く見られた。看護師の指導の仕方についても、「看護師によって言う事が違うので戸惑う」という意見が聞かれた。

糖尿病は自己管理の必要性が高く、そのためには統一した医療従事者の指導が重要となると考え、当病棟における標準指導マニュアルを作成し、スタッフの指導の統一を図る事を目的としてオレムのセルフケア理論を活用し、研究を行った。

尚、本研究は今年度がマニュアル作成、来年度は実施、3年目は評価・改善をめぐとした3年計画の研究である。

II. 研究目的

看護師間での指導の統一を図るために指導マニュアルを作成し、内容について検討し効果的指導につなげていく。

III. 概念枠組み (図1)

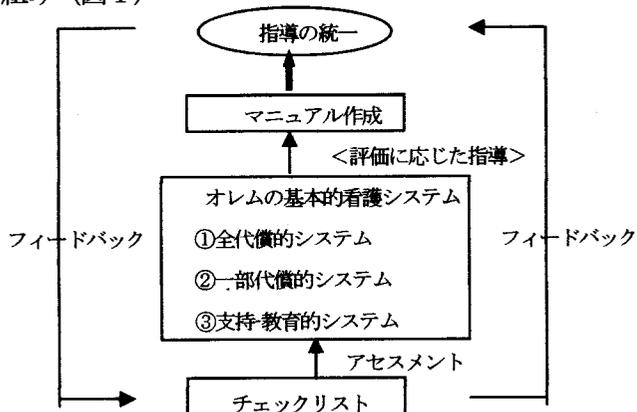


図1 概念枠組み

IV. 経過及び結果

指導マニュアル作成にあたり、まず患者の自己管理能力と看護師の援助活動を査定し把握する必要があると考えた。それぞれの患者はセルフケア能力を持っているが実行力には個人差がある。そこで、入院時と指導後では、セルフケア能力や理解についてどれだけの指導の成果を得られたかを明らかにするために、チェックリストを作成した。このチェックリストは患者のセルフケアや知識、理解、手技の能力について点数化し、その

合計点からオレムの看護システム理論(図2参照)の3段階に分類することとした¹⁾。全代償的システムとは、『歩行と手の運動を必要とするセルフケア行動に従事する能力が患者にまったくなく(あるいは禁止されていて)、看護師がその補完をしなければならない時に必要である』、一部代償的システムは『看護師と患者の双方がケア上の処置を遂行したり、細かな手作業や歩行を含む行動を遂行する時にみられる』、支持・教育的システムとは『患者が外的もしくは内的な治療的セルフケアの必要な方策を遂行する能力があるにもかかわらず、あるいは遂行するように学習し、しなければならないにもかかわらず、援助なしにはそうすることが出来ない状況のためにある』とされている。

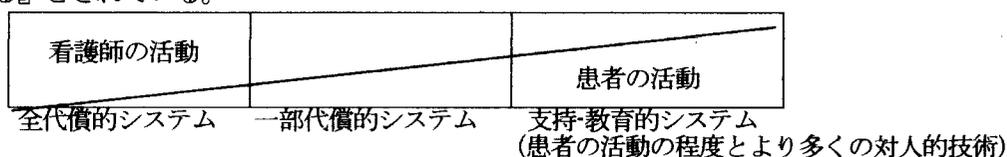


図2 看護活動の程度と調整的技術

次にインスリン導入後1週間経過した患者を対象に病棟スタッフが実際に使用してみた。その結果、患者の自己管理能力では、手技の項目では良い結果が得られたが、知識や理解の項目では多くの指導を必要とする結果が得られた。そこで、全代償的システムから支持・教育的システムの各段階の患者に対応できるようにマニュアルを作成し、手技の根拠や、低血糖症状の知識を取り入れることで反映させることとした。

マニュアルを作成するに当たっては、文献検索を行い、又医師の指導方法の情報収集をおこなった。その結果、看護師間でも統一した知識が得られた。

V. 考察

チェックリストの使用やマニュアルを作成する中で、患者のインスリン自己注射の自立には、根拠を理解した上で手技を習得することが必要であると考えられた。そこで、当病棟において作成した指導マニュアルを活用することで、今後インスリン自己注射におけるセルフケア行動の向上を図りたい。

リスクマネジメントの観点からも、患者が自己管理できるようにマニュアルを再考していく必要があると考える。

今回マニュアルを作成し、看護師の知識が統一されてないことが分かった。今後、作成したマニュアルを使用していくことで、統一した指導が可能となり、患者の自己管理能力の向上が促進されると考える。

VI. 終わりに

今後研究を継続していき、作成したマニュアルを改善して実際に使用する。その結果から得られた情報を元にマニュアルを作成し、インスリン指導の向上につなげて行きたい。

参考文献

- 1) 都留伸子監訳：看護理論家とその業績，医学書院，184，1998.
- 2) 金子美恵，瀬戸奈津子監修：総特集 糖尿病の患者さんによく聞かれる質問100，ナーシング・トゥデイ，5，2003.
- 3) 檜崎晃史，武田倬著：生活習慣病対策としての糖尿病一次予防の自己管理，Diabetes Frontier 2，14，221，2003.
- 4) 阿部隆三編著：患者さんとスタッフのための糖尿病教室，医歯薬出版株式会社，1999.
- 5) ガートルード トレス著：看護理論と看護過程，医学書院，110 - 113，2001.
- 6) 西崎統，石澤晋編集：新・糖尿病ナーシング，JNNスペシャル，67，2000.